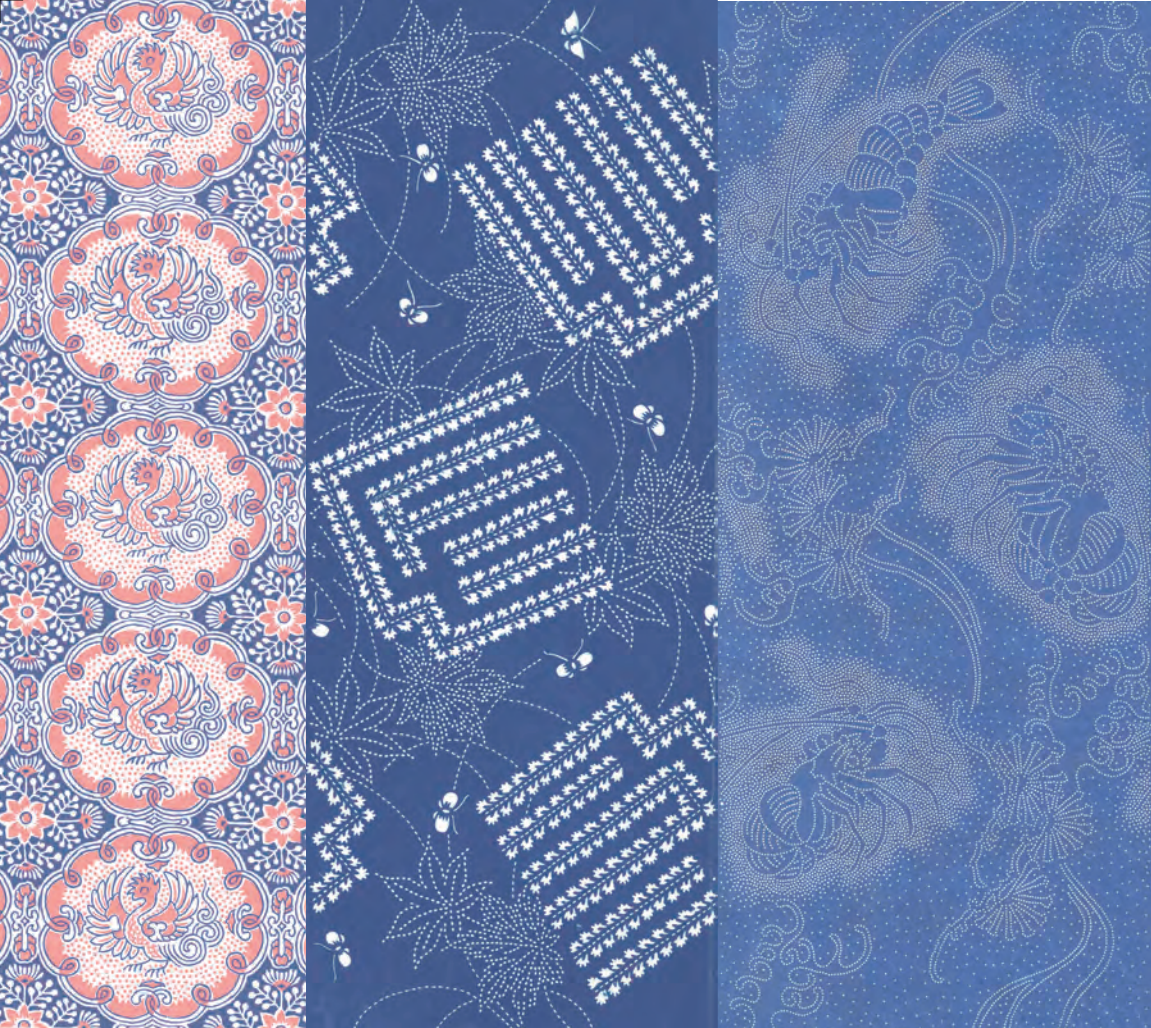


平成30年度企画展

染の形紙

—有年に残された江戸の華—



会期

平成31年

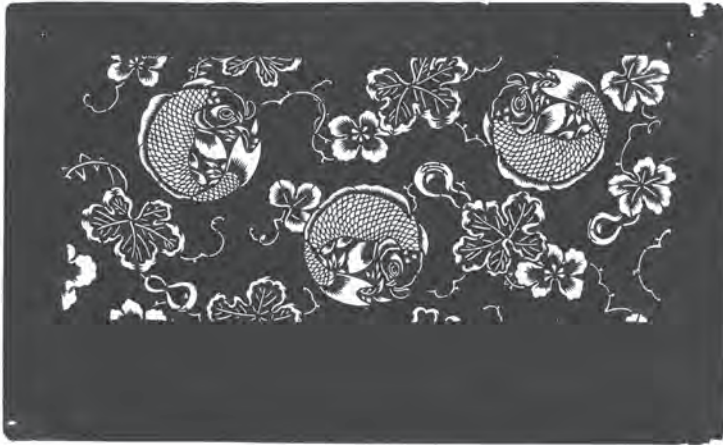
10月3日(水)～1月14日(月・祝)



赤穂市立
有年考古館

染の形紙

—有年に残された江戸の華—



鯉の丸に瓢箪（こいのまるにひょうたん）

有年考古館を創設した松岡秀夫氏の祖父は、江戸後期（安政年間）から染物屋（紺屋）^{こんや}を営んでおり、有年考古館にはそのときに使用されていた染型紙が600枚以上、残されています。

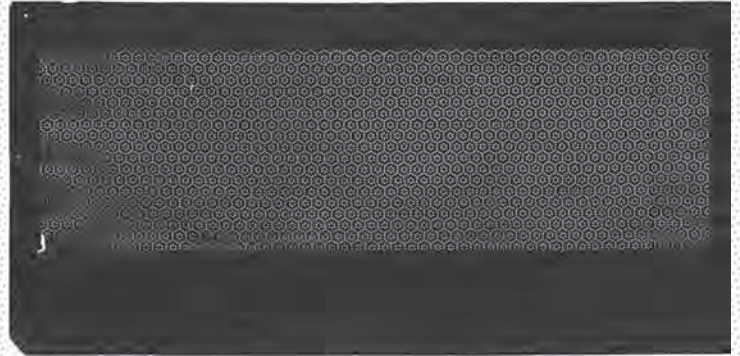
染型紙^{しろこじけ}は、白子・寺家（三重県鈴鹿市）や三木（兵庫県三木市）の職人によって製作されたもので、行商人によって赤穂市有年でも販売されたものです。

これらの型紙には、極めて精緻で美しい紋様が多くみられます。その紋様には当時の流行や人々の好み^{好み}が反映されており、当時の人々の暮らし^{暮らし}を知ることができます。

今回の展示では、有年考古館に残されたこれらの美しい型紙と模様を紹介し、そこから何が読み取れるかを紹介します。

今回の企画展では、江戸後期から明治時代までの「染形紙」^{そめかたがみ}について紹介します。

「染形紙」とは、染物に使用された型紙のことで、着物・浴衣・袴・布団・手拭^{かみしも}などに模様を染めるために使用されました。



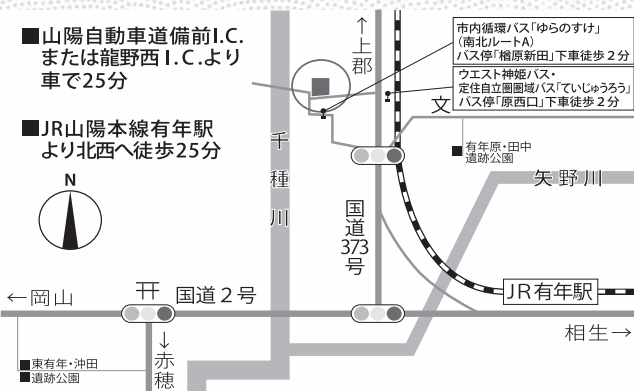
亀甲（きっこう）



酒尽くし（さけづくし）



蹴鞠に柳（けまりにやなぎ）



うね

赤穂市立有年考古館

〒678-1181 兵庫県赤穂市有年檜原1164番地1

TEL・FAX 0791-49-3488

よくみよーぼぼ **入館無料**

■休館日■ 火曜日 ※火曜日が祝日と重なる場合は次の平日
年未年始（12月28日～1月4日）

■開館時間■ 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

■Webサイト■ 「赤穂市立有年考古館」で検索！